

みの〜れで新しい自分との出逢い



「みの〜れは、仕事に追われる毎日に変化を与えてくれる。新しい自分に出逢える場所」と語る鯉沼さん

楽団四季「Jolly forest Jazz orchestra」

鯉沼 優さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.40

黄金色に輝く稲穂の絨毯に秋の気配を感じる頃となりました。秋の夜長に庭の虫たちが小さな羽根を震わせ音楽会を開いている。夏の疲れが出やすいこの時期は、のんびりと音楽に耳を傾げるのも良いですね。今回は、楽団四季「ジョリーフォレストオーケストラ」の一員でトロンボーンを担当している茨城町にお住まいの鯉沼優さん取材する。

仕事に追われる 毎日に変化を

鯉沼さんはジョリーフォレスト（楽団四季・ジョリーフォレストジャズオーケストラの略）に入団して、まもなく一年になる。鯉沼さんと楽器の出会いは、中学校の入学式の時だ。入場するとき、吹奏楽部の生演奏を聞いたとき「ドキッ」としてしまった。もちろん部活は吹奏楽部！と決めたが、男子生徒が吹奏楽部にはいなかった。なので、入部を決めるまでにはずいぶん悩んだそう。だ。「僕の場合、そのきっかけを逃してしまったら一生、楽器とのふれあいは無かったと思う」と鯉沼さんは話す。また、「ちよつとしたきっかけが人生を左右する。僕に限らず、ジョリーフォレストの人たちもチョットしたきっかけで楽器を始めたんだらう・・・と思うときがある」

と話す。中学校で吹奏楽部に入部したとき、楽譜も読めずゼロからのスタートだった。高校、大学とビッグバンドで活躍し、社会人になった一年位ブランクがあったという。恩師のバンドを観に行ったときに、ジョリーフォレストの事務局長との出会いがきっかけで現在に至っているという。鯉沼さんの職場は水戸にある。一時、鯉沼さんは水戸からバスを乗り継いで「みの〜れ」まで通ったことがあった。リュックを背負い、トロンボーンを片手に上手く乗り継ぎが出来ないときは一時間半かかった事もあった。「どんなに時間がかかっても来たい所、それ位好きな所」と話す。ジョリーフォレストの練習は週二回だが、仕事が理由で週に一度か、二週間に一度になってしまふことが、歯がゆい。そう語る鯉沼さんにとって「みの〜れ」は心のよりどころだという。「日々、仕事に追われる中で

仕事と家の往復から自分を見失ってしまった時期があった。みの〜れと出逢って自分を変えることが出来た。ここに来れば、また新しい自分に逢える・・・」そんな風に思えるようになったという。「自分を見失いそうになったときは是非、みの〜れに遊びに来てください。」と加えた。

10月17日（日）には「みの〜れ」に於いて、いばらきビッグバンドジャズフェスティバルが開催される。県内のビッグバンドが「みの〜れ」に集結して、森のホールではビッグバンドの本格的な演奏を聴くことが出来ます。また、風のホールではドリントクを片手にコンボ形式の演奏を楽しむ事が出来ます。さらに、なつかしの名画座や小美玉市民文化祭でも演奏を予定していますので是非、「みの〜れ」に足を運んで下さい。

（藤田佐知子）